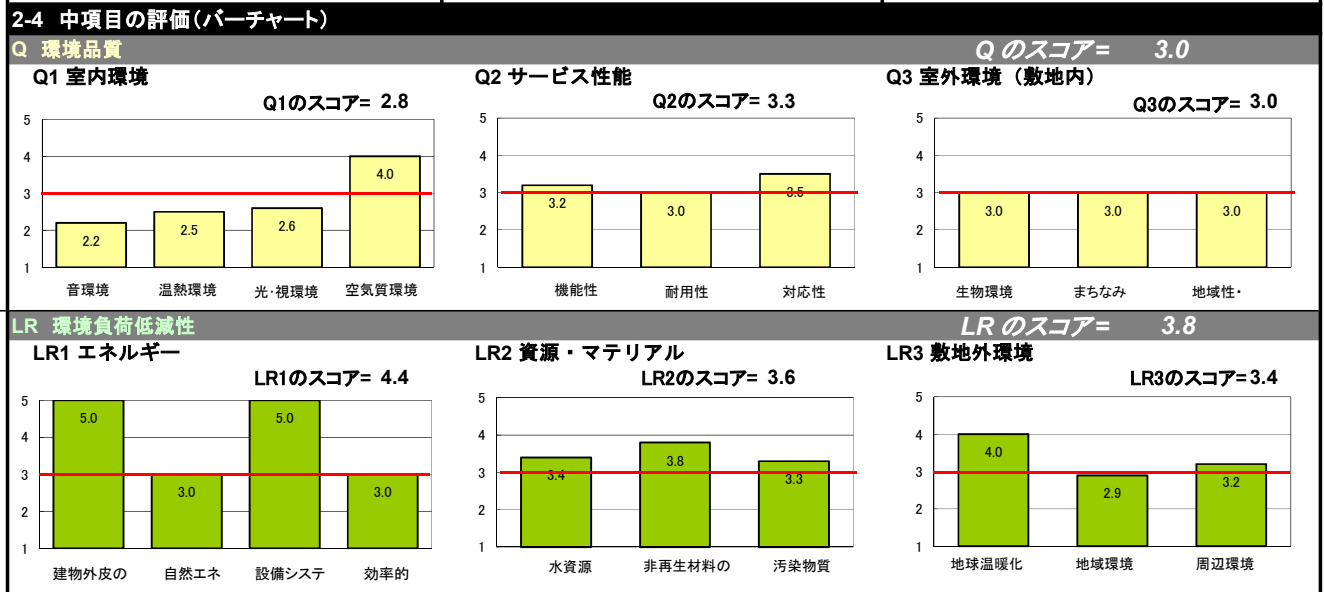
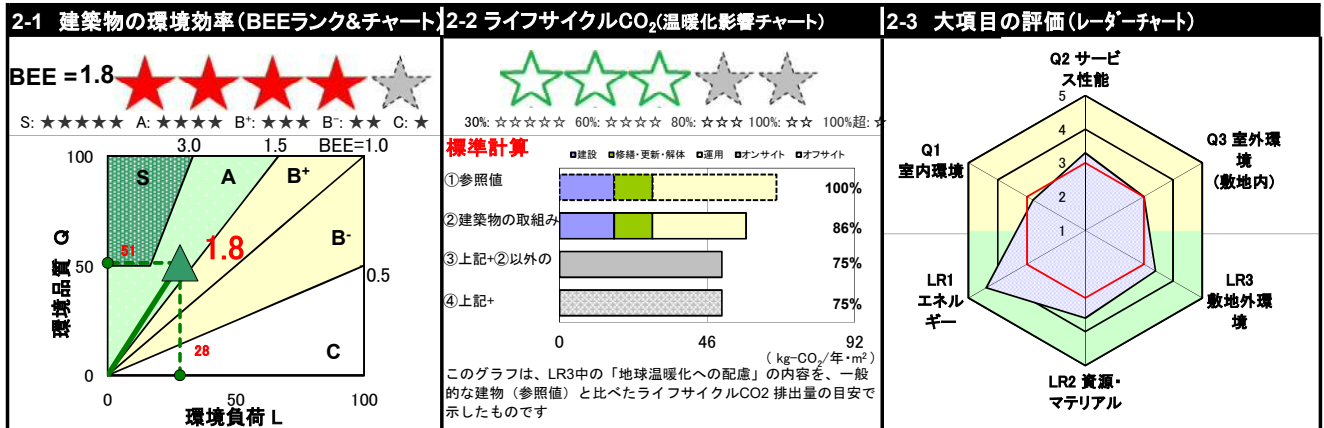


# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松ホトニクス株式会社 都田製作所第4棟	階数	地上4F
建設地	静岡県浜松市北区新都田一丁目10番地	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	39人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,658時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年3月1日
敷地面積	2,904㎡	作成者	新古和孝
建築面積	1,784㎡	確認日	2023年3月1日
延床面積	6,720㎡	確認者	中原健二郎



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
・天井裏設備ヤードにより、設備機器の維持管理、更新、修繕に配慮している	-
<b>Q1 室内環境</b> ・事務室の換気量は30m <sup>3</sup> /h人を確保している ・禁煙	<b>Q2 サービス性能</b> ・外壁面は防汚性の高いフッ素樹脂塗装とし、維持管理に配慮している ・清掃作業を効率的に行えるよう、掃除用流しは各階に設置 ・天井裏設備ヤードにより、仕上げ材を痛めることなく、空調配管の更新・修繕が可能
<b>LR1 エネルギー</b> ・BPI <sub>m</sub> =0.61 ・BEI <sub>m</sub> =0.56	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・水栓は節水こまタイプ、便器は節水型により節水に配慮している ・ビニル床材は、グリーン購入法適合品およびエコマーク認定品を使用する ・躯体+LGS+仕上げ材で、躯体と仕上げ材は容易に分別可能
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・空地率40%以上と、敷地内に風の通り道を確保している ・室外機はほとんどをGL+10m以上の位置に設置しており、敷地内歩行者空間の暑熱環境に配慮している
	<b>LR3 敷地外環境</b> ・室内にゴミを分別回収可能な容器の設置を計画しており、廃棄物の分別回収に配慮している ・広告物照明の設置はなし

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松ホトニクス株式会社 都	階数	地上4F
建設地	静岡県浜松市北区新都田一丁目10	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	39人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,658時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年3月1日
敷地面積	2,904㎡	作成者	新古和孝
建築面積	1,784㎡	確認日	2023年3月1日
延床面積	6,720㎡	確認者	中原健二郎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 86%  
③上記+②以外の 75%  
④上記+ 75%

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.3
4(教育)	2.3
5(ジェンダー)	2.0
6(水・衛生)	2.1
7(エネルギー)	2.1
8(経済・雇用)	2.2
9(イノベーション)	1.8
11(都市)	1.9
12(生産・消費)	2.4
13(気候変動)	2.1
15(陸上資源)	1.4
17(実施手段)	2.7

\*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

音環境	2.2
温熱環境	2.5
光・視環境	2.6
空気質環境	4.0

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

機能性	3.2
耐用性	3.0
対応性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

**LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.4

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	3.8
使用削減	3.3
汚染物質	
回避	

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.0
地域環境	2.9
周辺環境	3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
・天井裏設備ヤードにより、設備機器の維持管理、更新、修繕に配慮している	-
<b>Q1 室内環境</b> ・事務室の換気量は30m <sup>3</sup> /h人を確保している ・禁煙	<b>Q2 サービス性能</b> ・外壁面は防汚性の高いフッ素樹脂塗装とし、維持管理に配慮している ・清掃作業を効率的に行えるよう、掃除用流しは各階に設置
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・空率率40%以上と、敷地内に風の通り道を確保している ・室外機はほとんどをGL+10m以上の位置に設置しており、敷地内歩行者空間の暑熱環境に配慮している	<b>LR1 エネルギー</b> ・BPI <sub>m</sub> =0.61 ・BEI <sub>m</sub> =0.56
<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・水栓は節水こまタイプ、便器は節水型により節水に配慮している ・ビニル床材は、グリーン購入法適合品およびエコマーク認定品を使用する ・躯体+LGS+仕上げ材で、躯体と仕上げ材は容易に分別	<b>LR3 敷地外環境</b> ・室内にゴミを分別回収可能な容器の設置を計画しており、廃棄物の分別回収に配慮している ・広告物照明の設置はなし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要			
建物名称	(仮称)浜松ホトニクス株式会社 都田製作所 第4棟新築工事	BEE	1.8 BEEランク A ★★★★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.2 /5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつう 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	3.9	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①屋根U=0.3(W/m<sup>2</sup>K)、外壁U=0.4(W/m<sup>2</sup>K)</li> <li>③ブラインドにより昼光を制御できる</li> <li>④ステンレスダクトの使用で長寿命化</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥室外機はほとんどをGL+10m以上の位置に設置しており、敷地内歩行者空間の暑熱環境に配慮している</li> </ul> </li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦BPI<sub>m</sub>=0.61</li> <li>⑨BEI<sub>m</sub>=0.56</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪給水器具の過半に節水型器具を採用しており、節水に配慮している</li> <li>⑫ビニル床材、断熱材、天井ボードは、グリーン購入法適合品およびエコマーク認定品を使用する</li> <li>⑬躯体+LGS+仕上げ材で、躯体と仕上げ材は容易に分別できる</li> <li>⑬ODP=0かつGWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑮建物高さ、卓越風向に沿う敷地境界からの後退距離、より算出する隣棟間隔指標が0.5以上と、建物後流域での風の回復促進に配慮している</li> </ul> </li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑫ 1.2.2 ⑫ 2 2.1 ⑬ 2.2 ⑬ 2.3 ⑬ 2.4 ⑬ 2.5 ⑬ 2.6 ⑬ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑫ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑰給水器具の過半に節水型器具を採用しており、災害時の上水有効利用に配慮している</li> <li>⑰浸水の危険性が低く、電源設備や精密機器の浸水による情報網の損傷を回避している</li> </ul> </li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲階高は、工場部分5.1m以上とゆとりがある</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>㉑設計定例で建物利用者の要望事項を打合せ設計に反映している</li> </ul> </li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	3.0	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul> </li> </ul>	Q-3 1 ② 2 ② 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	② 生物環境の保全と創出 ② まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		